

第 20 回日本医学シミュレーション学会学術集会 セミナー企画書

第 1 回アドバンス DAM ハンズオンセミナー

日時：2025 年 2 月 15 日（土）9：30～12：00

場所：新潟医療人育成センター セミナー室 2

対象：気道管理に興味がある医師、メディカルスタッフ

受講者数：12 名

受講料：3,000 円

コース概要：

•DAM に有用な手技習得を目的としてシミュレーターを用いたハンズオン・トレーニングを行います。具体的には、DAM 実践セミナーでのハンズオントレーニング内容に加え、超音波を用いた上喉頭神経ブロックの方法、気管・輪状甲状膜同定目的の気道エコーや肺エコーなど、通常の実践セミナーでは行っていない手技も予定しています。また、豚喉頭を用いた輪状甲状間膜切開など実臨床では施行機会の少ない手技についても行う予定です。

実施責任者：渡部達範（新潟大学大学院医歯学総合病院麻酔科）

インストラクター：追って、確定予定

第 11 回 DAM リフレッシュセミナー

日時：2025 年 2 月 16 日（日）9：00～11：00

場所：新潟医療人育成センター セミナー室 2

対象：DAM インストラクター資格を有する医師および資格取得を目指す医師

受講者数：20 名

受講料：無料

コース概要：

・前半では、DAM 実践セミナーにおいて、模擬シナリオトレーニングでのチーム対応やデブリーフィングなどを通して DAM 実践セミナーのアウトカムや受講者が最低限習得すべきであると考えられること（Minimum requirement）とそのインストラクションスキルに関するレクチャーを聴講いただき、質疑応答を行います。後半では、同日の午後に開催予定での DAM 実践セミナーでのインストラクションの直前確認を兼ねた模擬演習を行う予定ですので、インストラクター/アシスタントに応募される方は原則として受講してください。ただし午後の DAM 実践セミナー参加予定の有無に関わらず、DAM インストラクター資格を有する医師および今後資格取得を目指す医師のいずれにとっても必要かつ有用な内容となっています。

・現行の DAM インストラクター認定規約では、新規申請者は申請時までの DAM リフレッシュセミナー受講歴が、更新申請者は更新申請時から 5 年以内の DAM リフレッシュセミナー受講歴が、それぞれ必要です。

インストラクター：五十嵐寛（浜松医科大学臨床医学教育学講座）

第 148 回 DAM 実践セミナー

日時：2025 年 2 月 16 日（日） 11：30～12：00 及び 13：00～15：30

場所：新潟医療人育成センター セミナー室 2

対象：気道管理に従事する機会がある医師、メディカルスタッフ

受講者数：10 名

受講料：15,000 円（医師会員）、20,000 円（医師非会員）、15,000 円（メディカルスタッフ）

コース概要：

•日本麻酔科学会気道管理ガイドライン 2014 (Japanese Society of Anesthesiologists Airway Management Algorithm、JSA-AMA) に基づき、気道管理の関する知識と技能を習得・再確認し、同時に、周術期や緊急時のチーム医療に不可欠な危機管理能力を学習するセミナーです。これまでに 140 回以上開催されており、受講生は 1200 名を超えています。

•到達目標:

1. 上記ガイドラインに従った気道管理に必要な戦略を理解し、必要な手技を習得、実践できる。

2. チーム医療に必要なノンテクニカルスキルを習得・実践できる。

•シナリオトレーニングは、いかにして患者を危機的状況に陥らせない戦略の理解を深めてもらうのが目的です。同時に、臨床現場に求められる Non-technical skills（コミュニケーション、タスク・マネジメント、チームワーク、状況認知、意志決定など）を向上させる機会としても非常に有用です。

•本セミナーは、以下の 3 部構成です。

1. JSA-AMA に基づいた気道管理の知識と戦略の基本を、講義形式で学びます。

2. DAM に必要かつ有用な各種手技を、シミュレータを用いたハンズオン・トレーニングで修得します。ブタの喉頭を用いた輪状甲状間膜切開など、実臨床ではトレーニング困難な侵襲的手技も安全かつ効果的に体験することが可能です。

3. 実際の DAM 症例を高機能患者シミュレータで再現し、複数の受講生が医療チームとして対応（シナリオトレーニング）し、受講生とインストラクターとによるデブリーフィング（debriefing、振り返り検討）を行うことで、より高い学習効果で、気道管理と緊急時のチーム医療に関する知識と実践能力の習得が可能となります。

コースディレクター：渡部達範（新潟大学大学院医歯学総合病院麻酔科）

インストラクター：小澤章子（国立病院機構静岡医療センター麻酔科）

水本一弘（和歌山県立医科大学医療安全推進部）

五十嵐寛（浜松医科大学臨床医学教育学講座）

江島豊（東北大学病院手術部）

木村哲朗（浜松医科大学附属病院）

星野竜広（三井記念病院呼吸器外科）

山田直人（八戸赤十字病院麻酔科）

1) 第 29 回鎮静指導者養成コース

2) 第 92 回鎮静実践セミナー

日時：1) 指導者養成コース 2025 年 2 月 16 日（日）9：00～12：00、13：00～16：00

※午前・午後両方の受講が必要です

※セミナー受講後、SED インストラクター申請書の提出が必要となります。詳しくは下記「SED 世話人会」のページから、「インスト規約」及び「SED インストラクター申請書」をご確認ください。
<http://sed.kenkyuukai.jp/special/?id=8460>

2) 実践セミナー 2025 年 2 月 16 日（日）13：00～16：00

場所：新潟医療人育成センター カンファレンス室 1+2

対象：1) JAMS の A 会員

*インストラクター資格申請には、①JAMS の A 会員、②何らかの専門医資格かシミュレーション教育の資格を有することが必要となります。

2) 医師、看護師を始めとするメディカルスタッフ

受講者数：1) 4 名（新規）、4 名（インスト資格あり） 2) 20 名

受講料：1) 15,000 円（新規）、無料（インスト資格あり）

2) 8,000 円

コース概要：

米国麻酔科学会（ASA）は、2018 年に「非麻酔科医のための鎮静・鎮痛薬投与に関する診療ガイドライン（ASA-SED2002）」を改定し、新しく「処置目的の中等度鎮静ガイドライン（ASA-SED2018）」として発表した。ASA-SED2002 では鎮静を行う対象を明確にしていなかったが、ASA-SED2018 では対象を『処置時に必要となることの多い中等度鎮静』に絞った事で、鎮静を行う際の注意点が明確になった。加えて、鎮静を行う際の重要なポイントを①鎮静前評価、②モニタリング、③鎮静担当者と緊急対応システム、④鎮静薬・鎮痛薬の投与原則、⑤回復期のケアの 5 点に分類して解説する事で、非麻酔科医に対してもより理解しやすい内容となった。本邦においても安全な鎮静環境を構築して、質の高い鎮静医療を提供する必要性と鎮静中に生じやすいトラブルに対して適切に対応できる技術習得の重要性は依然として重要な課題であり、当委員会は非麻酔科医のためのシミュレーションを主体とした講習会を定期的に開催している。

本コースでは、鎮静医療に携わる医師が自信を持って安全な鎮静医療を提供できるように、ASA-SED2018 を基にした知識と技術の習得を目標としている。実践コースでは、受講生自身が安全な鎮静・鎮痛を学ぶとともに、自施設の鎮静環境改善に役立つヒントを見つけ、明日からの臨床に繋げられる学びをお手伝いします。鎮静指導者養成コースでは、さらに自施設での体制構築や院内外で鎮静の講習会開催を行えるようになる事を目指し、講習会の内容・資料等の提供も含め、鎮静講習会の骨格を学んでいただけます。皆様の参加をお待ちしています。

コースディレクター：羽場政法（ひだか病院麻酔科）

インストラクター：太田隆嗣（湘南鎌倉総合病院麻酔科）

千原孝志（公立甲賀病院麻酔科）

鈴木智文（JA 三重厚生連三重北医療センターいなべ総合病院麻酔科）

井本真帆（淡海医療センター麻酔科）

植木隆介（兵庫医科大学麻酔疼痛医学制御講座）

アシスタント：仲俊行（テルモ株式会社テルモメディカルプラネックス）

HFS セミナー 周術期危機管理セミナー

日時：2025年2月16日（日）9：00～12：00

場所：医学部大講義室

対象：麻酔科専攻医師（原則3年目～7年目）

受講者数：8名

受講料：5,000円（医師会員）、10,000円（医師非会員）

コース概要：

高機能シミュレーターを用い、手術中における危機的偶発症（出血、悪性高熱、肺塞栓、局所麻酔中毒など）を再現し、受講者（原則、麻酔科専門医を目指すもの）にシナリオ体験をしてもらう。ビデオデブリーフィングを活用し、テクニカルもしくはノンテクニカルな観点から振り返りを行い、学びを深くする。

インストラクター／アシスタント：

二階哲朗（島根大学病院集中治療部）

森 英明（島根大学医学部麻酔科学教室）

中島芳樹（浜松医科大学麻酔科）

看護師向け超音波セミナー

日時：2025年2月16日（日）13：00～16：00

場所：医学部大講義室

対象：看護師、理学療法士、臨床工学技士など

受講者数：20名（最大25名）

受講料：7,000円（メディカルスタッフ） ※学術集会の参加費用は含まれておりません。

コース名：「ポケットエコーで看護力アップ・看護師向け超音波セミナー」

コース概要：

患者ケアに超音波画像による評価を用いることにより、より適切なケアが可能になってくる。そのため超音波画像は他のアセスメントと同様にフィジカルアセスメントの一つに加わり、患者状態を評価の正確性を高める手段として用いられている。今回は、褥瘡、膀胱内容量、便秘などの評価（一部、最先端の技術を用いて）はもとより、簡単な肺エコーによる換気の評価や食道胃エコーによる胃管や胃内容の描出、また徐々に用いられてきている超音波画像をガイドとした末梢静脈ライン確保などの方法と実際を理解することを目的にする。病院から在宅まで、どこでも必要な超音波画像の評価手法をぜひ習得してほしい。

インストラクター／アシスタント：

- 松本 勝（石川県立看護大学共同研究講座ウェルビーイング看護学）
- 阿部麻里（東京大学大学院医学系研究科老年看護学／創傷看護学分野）
- 松村初恵（島根大学医学部看護学科臨床看護学講座（成人看護学））
- 鈴木昭広（自治医科大学附属病院周術期センター麻酔科）
- 二階哲朗（島根大学医学部麻酔科学教室）
- 野村岳志（医療法人徳洲会）
- 佐藤暢夫（聖マリアンナ医科大学麻酔科学教室）

【セミナー見学可】

PICC Education Course

共催：カーディナルヘルス株式会社

日時：2025年2月16日（日）13：00～16：00

場所：新潟医療人育成センター セミナー室1

対象：指導的立場にある医師

受講者数：8名

受講料：5,000円（医師会員）、10,000円（医師非会員）

コース概要（公開で行います（見学可））

中心静脈穿刺の中で最も安全とされる PICC（末梢挿入型中心静脈カテーテル）は、その安全性とは裏腹に、技術的には中心静脈穿刺の中で最も難しいカテーテルである。本コースでは、PICC に必要とされる基本手技のハンズオン・トレーニングから、実際の挿入でのトラブルシューティングに関する知識の習得まで、PICC の臨床技術のほぼ全てを網羅したコースになっています。

1. PICC に必要な基本技術の理解：超音波の操作法と運針法
2. シミュレーターを用いた高難度末梢静脈のカニューレション：ハンズオン・トレーニング
3. PICC 挿入におけるカテーテル迷入の回避方法：PICC シミュレーターでのトレーニング、人の上腕～胸・頸部の観察

コースディレクター：徳嶺讓芳（杏林大学医学部麻酔学教室）

松島久雄（獨協医科大学埼玉医療センター救急医療科）

湯浅晴之（近畿大学医学部麻酔科学講座）

インストラクター：西條文人（東北大学病院医療安全推進室）

菊地麻美（群馬大学医学部附属病院臨床研修センター）

杉木大輔（獨協医科大学埼玉医療センター救急医療科）

岡野弘（聖路加国際病院 集中治療科）

北浦淳寛（近畿大学医学部麻酔科学講座）

金本匡史（群馬大学医学部附属病院集中治療部）

本保晃（杏林大学医学部麻酔学教室）

アシスタント：三宅好樹（近畿大学病院看護部）

水野裕美子（近畿大学病院看護部）

* 個人情報の取り扱いについて *

ご記入いただいた個人情報は共催各社の製品・サービス情報のご案内に使用させていただきます。

ワークショップ「シミュレーション教育の理論と実践～ステップで学ぶシミュレーション教育～」

日時：2025年2月15日（土）14：40～17：40（セッション1）

2025年2月16日（日）9：00～12：00（セッション2）

2025年2月16日（日）13：00～16：00（セッション3）

場所：新潟医療人育成センター セミナー室1（セッション1）

新潟医療人育成センター ホール（セッション2・3）

対象：すべての指導者

レベル：初心者～中級者

受講者数：各セッション20名（空きがあれば当日参加も可）

受講料：各セッション5,000円

コース概要

シミュレーション教育を始めたいがどのように始めればよいかわからない、あるいは実践しているもののその手法や効果に不安を感じている、といった指導者も多いのではないだろうか。本ワークショップは、そのような悩みを抱える指導者や、シミュレーション教育についての知識を深めたいと考える指導者に向けたワークショップである。米国認定シミュレーション教育者(Certified Healthcare Simulation Educator, CHSE)の資格を有するファシリテータが担当し、シミュレーション教育の専門知識の提供、少人数グループワーク、さらに実践経験に基づく具体的なフィードバックを行う。

本ワークショップは、講義と少人数グループワークを組み合わせた形式で、2日間にわたり3つのセッションで構成される。各セッションは180分で、参加者はニーズに応じてすべてに参加することも、一部を選択して参加することも可能である。セッション1では、シミュレーション教育の教育学的背景の整理、および教育目標の設定とシナリオ設計について学ぶ。セッション2ではシナリオの実施とファシリテーション、セッション3はデブリーフィングの実践的スキルを学ぶ。各セッションの詳細は後述する。

本ワークショップを通じて、指導者が自信を持ってシミュレーション教育に取り組むための具体的なスキルと知識を習得し、教育現場での質的向上を実現することを期待する。

■セッション1 「学習目標の設定とシナリオ設計」

日時：2025年2月15日（土）14：40～17：40

目的：適切な学習目標を設定することは、良いシナリオ設計の大黒柱である。シミュレーション教育を支える教育学的背景を理解するとともに、学習目標の設定と、シナリオ設計の基本を学ぶ。理論と実践を結びつけ、自身の教育現場で効果的にシミュレーション教育を実施するための基盤を構築する。

内容（変更になる可能性があります）：

1. シミュレーション教育の教育学的背景（講義）
2. 教育目標の設定（講義＋グループワーク）
3. シナリオ設計の基本（講義）
4. グループワーク：シナリオ作成
5. 全体共有とディスカッション

■セッション2 「シナリオの実施とファシリテーションスキル」

日時：2025年2月16日（日） 9：00～12：00

目的：シナリオを実施する際の準備と運営方法を理解し、心理的安全性を確保した学習環境を構築するファシリテーション技術を習得する。また、セッション1で学んだ教育学的背景や学習目標の重要性を振り返り、シナリオ実施への応用を深める。

内容（変更になる可能性があります）：

1. セッション1の復習：教育学的背景と学習目標の重要性
2. 機器の選択と準備
3. プレブリーフィング（オリエンテーション）の重要性（講義）
4. ファシリテーションの基礎（講義）
5. ファシリテーション技術の実践（グループワーク）
6. 全体共有とディスカッション

■セッション3 「デブリーフィング実践」

日時：2025年2月16日（日） 13：00～16：00

目的：シミュレーション教育において、学びが生じるパートはシナリオ後に行われるデブリーフィングである。学習成果を最大化するために、デブリーフィングの基本原則を学び、その技術を練習する。学習者の省察（リフレクション）を深めるための効果的な方法を学び、現場で活用できる実践的なスキルを身につける。

内容

1. 教育学的背景の復習（講義）
2. 構造化されたデブリーフィングの基本（講義）
3. フィードバックとの違いと効果的なフィードバックの方法（講義）
4. グループワーク：デブリーフィングの練習とメタデブリーフィング
5. 全体共有とディスカッション

企画責任者／座長：衛藤由佳（東京慈恵会医科大学救急医学講座／
ハワイ大学 SimTiki シミュレーションセンター）

ファシリテータ：大内元（琉球大学）
万代康弘（東京慈恵会医科大学）
佐藤絵梨（ねりま健育会病院）
八木街子（自治医科大学）